

第15回 CIEC サタデーカフェ

開催概要

開催日:2022年9月10日(土)20:00~21:00

会場:Zoom によるオンライン開催

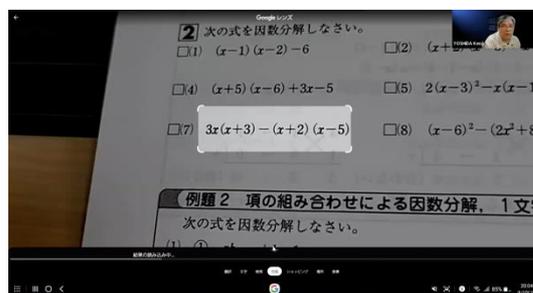
プログラム

20:00 - 20:15 【 話題提供 】

スピーカー:吉田賢史氏 (早稲田大学高等学院)

テーマ:「Google の宿題機能は学力を低下させるか〜真の学力とは何か〜」

20:15 - 21:00 【 参加者とのフリーディスカッション 】



第15回 CIEC サタデーカフェは「Google の宿題機能は学力を低下させるか ~真の学力とは何か~」をテーマに早稲田大学高等学院の吉田賢史氏による話題提供となりました。今回は、いつもと趣向が異なり、「いくつかのアプリを紹介するので、それをもとにみなさんと議論できればと考えています。」と冒頭に言われ、話題提供がスタートしました。紹介されたツールは、Google Lens の宿題機能(写真参照)、nebo(Myscript 社)、OneNote for Windows10 でした。これらのツールは、数式を写真で取り込む、あるいは、手書き入力した数式をアプリに認識させることで、即座に答を出力するものとなります。中には、WolframAlpha にコピーすることで、より詳しい式変形の途中経過情報を表示させることもできたり、その数式からグラフを描写する事もできたりします。吉田氏はこれらのデモンストレーションを行って下さいました。それを踏まえての話題提供なのですが、「これらは授業の邪魔になるのか、障害になるツールなのか。またそもそも宿題とは何なのか。これを使うと本当に学力が下がるのか、また、そうならなぜ下がるのか。皆さんと考えていきたいです。」このような投げかけで終了しました。

ここからは、参加者の皆さんでのディスカッションとなりました。テーマが奥深いだけに、いろいろなところに話は発散しましたが、「真の学力とは何か」というテーマについての話題としては、「かつて小学生に九九を電卓で教えている事例を見たことがあるが、そのときに覚えた違和感を思い出した。今日紹介のものも、ツールとしては理解できるが発達段階の子どもたちであるということを考えると、思考のステップとして九九を覚えることを通ることが大切なのではないか?」というところから、「小学生は、最初に先生から教わったことを、その通りにする傾向が強いため、これらのツールを最初に知ってしまうとよくないのでは?」という話や、「高校生段階では課題解決用ツールとして使ってもいいと思うが、なぜこういう答えになるのかを考えられるようにならないといけない。」という意見も出されました。そこから話は、アプリの利用の仕方についての話題に移り、「計算機としては使ってほしくないが、考察ツールとしてはいいのではないか。」や、「問題がわからない子がアプリを使うとしたら、宿題をなんとかするために使うという子が多いのではないか。問題の中身をきちんと理解することよりも、提出物の体裁を整えるためなどに使うとなれば本末転倒で、それはダメなツールではないか。」という意見もありました。「これらのアプリが、自分の学生時代に存在していたら、アプリを使うメリットとして、つまづきポイントを自分で見つけ出すことができ、途中で投げ出すことが少なくなっていたと考えられる。デメリットは、すぐ答えが出てしまうこと。それによって分かった気になってしまい、思考そのものが止まってしまうような気がする。」という話が出されたところで、タイムアップとなり終了となりました。

今回は21名の参加で、大変有意義な時間となりました。テーマが奥深く、議論し尽くせない内容で、その上、きちんとしたまとめもできず、司会者として申し訳なかったと感じています。現在のところ、これらのツールは「知識・技能」の答えを出してくれるものであり、「思考力・判断力・表現力」を支援するツールであると吉田氏は締めくくられました。つまり、「思考力・判断力・表現力」は、教員がきちんと子どもたちに授業を通してつけてあげないといけない力であり、子どもたちにはその力をつけるための「補助ツール」として、これらを活用していければ、より深い学びにつながるのではないかと私は強く感じました。今回の話題提供者である吉田氏を始め、ご参加頂いた方々にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。(文責:平田義隆)